

科目名	発達支援看護学特論 Discussions on topics assessing growth and development in Pediatric and Family Nursing
授業形態	講義(50%)、演習(50%)
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	春学期 A・B 木曜日1・2(原則)だが受講生との協議により不定期に定める
単位数	2単位
担当教員名	涌水 理恵 小澤 典子
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	オフィスアワーは特に定めませんが事前にメール連絡をしてアポイントメントをとること 涌水 理恵 riewaki@md.tsukuba.ac.jp 小澤 典子 nozawa@md.tsukuba.ac.jp
授業の到達目標 (学習成果)	(1)子どもと家族に対する発達支援の現状について知ることが出来る (2)妊娠期にある女性および家族に対する支援の現状を知ることが出来る (3)新生児と新生児を養育する家族の支援の現状を知ることが出来る (4)乳児期の子どもと子どもを養育する家族の支援に関する現状を知ることが出来る (5)乳児期の子どもと子どもを養育する家族の支援に関する現状を知ることが出来る (6)学童期の子どもと子どもを養育する家族の支援に関する現状を知ることが出来る (7)思春期の子どもと子どもを養育する家族の支援に関する現状を知ることが出来る (8)青年期の子どもと子どもを養育する家族の支援に関する現状を知ることが出来る (9)最新の研究動向を理解し、妊娠期にある家族の課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を述べる事が出来る (10)妊娠期にある家族の看護援助について様々な現状へのアプローチと発達を支援する具体的な看護援助方法について検討することが出来る (11)最新の研究動向を理解し、養育期にある家族の課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を述べる事が出来る (12)養育期にある家族の看護援助について様々な現状へのアプローチと発達を支援する具体的な看護援助方法について検討することが出来る (13)選択した子どもの疾患に関する最新の研究動向を理解する。 (14)疾患があり入院している子どもを養育する家族の課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を述べる事が出来る (15)入院している子どもと子どもを養育する家族の看護援助について様々な現状へのアプローチと発達を支援する具体的な看護援助方法について検討することが出来る (16)入院している子どもと子どもを養育する家族の看護援助について新たなアプローチ方法を検討することが出来る (17)最新の研究動向を理解し、慢性疾患の子どものとその家族の課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を述べる事が出来る (18)慢性疾患を持つ子どもとその家族の看護援助について様々な現状へのアプローチと発達を支援する具体的な看護援助方法について検討することが出来る (19)最新の研究動向を理解し、子どもの養育に困難を抱える家族の課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を述べる事が出来る (20)子どもの養育に困難を抱える家族の看護援助について様々な現状へのアプローチと発達を支援する具体的な看護援助方法について検討することが出来る
他の授業科目との関連	発達支援看護学演習、家族看護学特論
履修条件	
授業概要	小児の成長発達や親子関係、家族への援助など、また、次世代を生き育てる準備期といえる思春期から成熟期・更年期にかけての女性の健康に焦点を当て、発達支援看護学の視点から科学的根拠に基づいた看護の方法を体系的に把握する。海外の文献を中心に論文講読を行い、子ども・女性・家族の健康と看護に関する最新の研究動向を理解し、看護課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を理解する。
キーワード	成長発達、小児とその家族への看護、発達支援 Growth and development, Pediatric and Family Nursing, Developmental support

<p>授業計画</p>	<p>1 (4/11) (さまざまな状況にある子どもと家族への発達支援と看護ケア)(涌水・小澤) 2 (4/11) (子どもと家族への発達支援と看護ケア:妊娠期)(涌水・小澤) 3 (4/18) (子どもと家族への発達支援対応と看護ケア:新生児期)(涌水・小澤) 4 (4/18) (子どもと家族への発達支援対応と看護ケア:乳児期)(涌水・小澤) 5 (5/9) (子どもと家族への発達支援対応と看護ケア:幼児期)(涌水・小澤) 6 (5/9) (子どもと家族への発達支援対応と看護ケア:学童期)(涌水・小澤) 7 (5/16) (子どもと家族への発達支援対応と看護ケア:思春期)(涌水・小澤) 8 (5/16) (子どもと家族への発達支援対応と看護ケア:青年期)(涌水・小澤) 9 (5/23) (新しい生命を迎える家族への発達支援1)(涌水・小澤) 10 (5/23) (新しい生命を迎える家族への発達支援2)(涌水・小澤) 11 (5/30) (新しい生命を迎えた家族への発達支援1)(涌水・小澤) 12 (5/30) (新しい生命を迎えた家族への発達支援2)(涌水・小澤) 13 (6/6) (入院する子どものいる家族への発達支援と看護ケア1)(涌水・小澤) 14 (6/6) (入院する子どものいる家族への発達支援と看護ケア2)(涌水・小澤) 15 (6/13) (入院する子どものいる家族への発達支援と看護ケア3)(涌水・小澤) 16 (6/13) (入院する子どものいる家族への発達支援と看護ケア4)(涌水・小澤) 17 (6/20) (慢性疾患をもつ子どものいる家族への発達支援と看護ケア1)(涌水・小澤) 18 (6/20) (慢性疾患をもつ子どものいる家族への発達支援と看護ケア2)(涌水・小澤) 19 (未定) (子どもの養育に困難を抱える家族への発達支援と看護ケア1)(涌水・小澤) 20 (未定) (子どもの養育に困難を抱える家族への発達支援と看護ケア2)(涌水・小澤)</p>
<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>講義(15時間)、演習(15時間)</p> <p>事前に課題を行い、プレゼンテーションの準備およびクリティークの準備を万全にして授業に臨む。 毎回プレゼンテーションをしたのち、ディスカッションを実施する。 授業外でも、学生同士で授業内容の活用方法の討論を活発におこない、日頃から関連文献を検索・精読し、授業内容について、積極的に思考する態度をもつ。</p>
<p>成績評価方法</p>	<p>15コマ以上の出席と最終評価が60点以上が単位主要要件である。 評価方法および評価配分は以下の通り。毎回、プレゼンテーション(50%)、ディスカッション(50%)で到達目標の達成度を判定し、全20回分の平均をとって成績を評価する。評価基準は以下の通り。 到達目標を指導に従って大旨達成できればC以上と判断する。 到達目標を大旨達成できていると判断されればB以上と判定する。 到達目標を優れて達成できていると判断されればAと判定する。 到達目標を非常に優れて達成できていると判断されればA+と判定する。</p>
<p>教材・参考文献・配布資料等</p>	<p>随時紹介・随時配布する。</p>
<p>その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)</p>	<p>やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。やむを得ず欠席する場合には事前に必ず申し出ること。30分を過ぎた遅刻は欠席とみなす。</p>